

亜種アカモズの保全の取り組みについて



写真（亜種アカモズ 松宮裕秋氏撮影）

亜種アカモズ（*Lanius cristatus superciliosus* 以下、アカモズと言う）は、日本のみで繁殖し、東南アジアで越冬する渡り鳥です。環境省レッドリストで絶滅危惧 IB 類、種の保存法において国内希少野生動植物種となっています。2022 年時点で生息が確認された個体は僅か 92 つがいのみで、その約半数を占める長野県の個体群は近年の減少率が約 40%に達し、このままでは 2026 年にも地域絶滅することが予測されています。

有効な保全策の確立が急務ですが、減少要因は未だに不明であり、生息域内における対策のみで絶滅を回避できる可能性は極めて低いと言えます。そのため、緊急的に生息域外保全を開始し、保険個体群を形成することが必要とされています。

豊橋総合動植物公園は、人間環境大学環境科学部フィールド生態学科岡久研究室および長野アカモズ保全研究グループの呼びかけに応じ、令和 5 年から共同でアカモズの保全事業を開始しました。

親鳥が放棄した巣などから採取した卵を当園へ移送し、人工孵卵及び人工育雛を実施しました。モズなどの近縁種から得られたデータや、これまで当園が取り組んできた和鳥飼育のノウハウを応用して試行錯誤したところ、幸いなことに 9 羽の人工育雛に成功しました。この成功は、絶滅の危機に瀕しているアカモズの保全に対して大きな成果と言えます。

令和 6 年からは、人工育雛個体をファウンダーとして、飼育下繁殖にも取り組む予定です。



【本事業の今後の計画】

- ① アカモズの飼育繁殖技術を確立し、飼育個体群を確保。短期的な絶滅を回避する。
- ② 保全的移殖を実施。生息域内保全と連携した生息域外保全を実現し、遺伝的に多様な飼育個体群を確保しつつ野生下の個体数の増加を図る。
- ③ アカモズが野生下で安定的に存続できる状態を確保する。

※本事業は、共同実施者と協力して、環境省生物多様性保全推進交付金、日本動物園水族館協会野生動物保護募金および東京動物園協会野生生物保全基金の助成を受けて実施しています。

※採卵や飼育等は、環境省による許認可のもと、関係法令を遵守して実施しています。